

2021年10月入学 入学試験問題用紙
Entrance Examination for October 2021
Examination Questions

岡山大学大学院環境生命科学研究科
Graduate School of Environmental and Life Science
(Master's Course) OKAYAMA UNIVERSITY

専門科目 Subject
資源管理学

問題 1.

以下の文章を読んで問に答えなさい。なお、解答は図を用いて説明しても良い。

緑の革命 (Green Revolution) では、1960年代半ばにフィリピン国際イネ研究所 (IRRI)にて、多収量品種米 (IR8) が開発され、東アジアを中心に普及していった。このIR8は、半矮性 (背が低い)・多収性・肥料反応性が高い、が特徴の品種である。右図に示す様に、在来種 (Peta, Taichung Native) とIR8を比較すると、10aあたりの窒素肥料投入量を増加することで、収量が増加していく。

問1. 在来品種からIR8に作付けを变化することで、農家の単位面積あたりの肥料投入量は増加・減少のいずれになるだろうか？その理由と共に説明しなさい。

問2. IR8の普及により、多くの農家がIR8を作付けすることにより、肥料価格は上昇・下落のいずれになるだろうか？その理由と共に説明しなさい。

2021年10月入学 入学試験問題用紙
Entrance Examination for October 2021
Examination Questions

岡山大学大学院環境生命科学研究科
Graduate School of Environmental and Life Science
(Master's Course) OKAYAMA UNIVERSITY

専門科目 Subject
資源管理学

問題 2.

日本はアメリカ・中国と比較すると米生産の平均費用は非常に高く、約7倍である。アメリカ・中国のそれぞれが、日本よりも低い生産費で米を生産できている理由を下の表のデータにもとづいて説明しなさい。